

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(令和2年7月解析分)

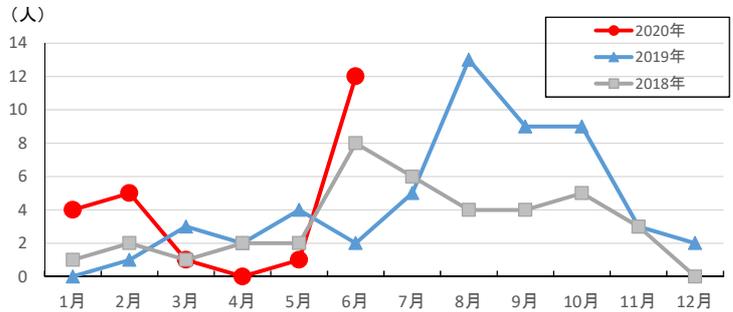
1 今月のトピックス

(1) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌による感染症は、例年6月～10月にかけて多くの患者数が報告されています。

県内では、今年6月に12名の患者が報告されており、まだまだ、発生が多い時期が続くことから、引き続き注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染者の月別報告数(広島県)

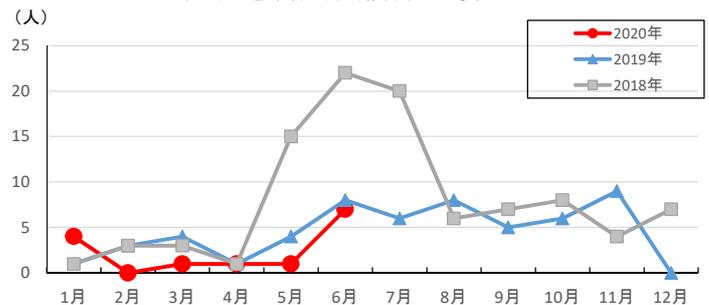


病原体	腸管出血性大腸菌 O157, O26, O111, O128 など (ペロ毒素をつくるもの)
症状	<ul style="list-style-type: none"> ・症状がないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うもの、さらに、重症化して溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症する場合など、症状は様々です。 ・多くの場合、3～8日の潜伏期間の後に、頻回の水様性下痢で発病し、激しい腹痛、血便を伴います。 ・子どもや高齢者は重症化しやすいので、特に注意が必要です。
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取することで感染します。 ・感染力が非常に強いので、患者や保菌者の便からの二次感染もしばしば起こります。
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの励行が基本となります。特に食事前やトイレ後の手洗いは徹底してください。 ・食品は、中心温度を75℃以上で1分以上、十分加熱調理してください。 ・焼肉などの時は、取り箸やトングは、生肉用と食用は使い分けてください。

(2) レジオネラ症について

レジオネラ症は感染症のひとつで、水中や土壌中など自然界に広く存在するレジオネラ属菌が原因で起こります。細菌が増殖しやすい夏季に多いとされ、県内では、今年6月に7名の患者が報告されています。ヒトからヒトへの感染はありませんが、家庭では、感染源での増殖を防ぐことが重要です。

レジオネラ症感染者の月別報告数(広島県)



病原体	レジオネラ属菌
症状	<ul style="list-style-type: none"> ・劇症型のレジオネラ肺炎と一過性のポンティアック熱の2つの型があります。 ・高齢者や乳幼児、病気にかかっているなど免疫力が低下している人に発病のおそれ強いといわれています。 【レジオネラ肺炎】発熱、咳、痰、呼吸困難とともに、頭痛、筋肉痛、下痢、意識障害など重症となった場合、死亡例も報告されています。潜伏期間は2～10日。 【ポンティアック熱】発熱、咳、頭痛、筋肉痛、呼吸器症状は軽微。潜伏期間は1～2日。
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> ・レジオネラ属菌に汚染された目に見えないほど細かい水滴 (エアロゾル) や土ぼこりを吸い込むことで感染します。
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> ・お湯を循環ろ過して長期間使用する風呂などは、浴槽を清掃し清潔に保ってください。 ・加湿器のタンクの水はこまめに取り換え、水道水など衛生的な水を使用してください。 ・家庭菜園や大雨の後に自宅周りを掃除する際は、マスクや手袋を着用してください。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和2年6月分(令和2年6月1日～令和2年7月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	
1	インフルエンザ	1	0.00	0.04		10	ヘルパンギーナ	9	0.03	1.12	
2	RSウイルス感染症	1	0.00	0.15		11	流行性耳下腺炎	21	0.06	0.47	↗
3	咽頭結膜熱	67	0.19	0.85	↗	12	急性出血性結膜炎	3	0.03	0.03	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	246	0.69	2.72	↗	13	流行性角結膜炎	24	0.25	1.01	↗
5	感染性胃腸炎	838	2.34	6.01	↗	14	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	水痘	49	0.14	0.31	↑	15	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	16	0.04	2.87	→	16	マイコプラズマ肺炎	4	0.04	0.19	
8	伝染性紅斑	6	0.02	0.32	↓	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	178	0.50	0.45	↗	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.07	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和2年6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	65	2.83	2.32	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	60	2.86	2.94	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	20	0.87	0.98	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	0.19	0.31	
21	尖圭コンジローマ	19	0.83	0.78	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.03	
22	淋菌感染症	28	1.22	0.68	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5~2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 水痘 (0.07 → 0.14)
○急減疾患 伝染性紅斑 (0.07 → 0.02)

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1~11	12, 13	19~22	14~18, 23~25	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	39	結核(39)〔西部保健所(4),西部東保健所(2),東部保健所(3),北部保健所(2),広島市保健所(19),呉市保健所(1),福山市保健所(8)]
三類	12	腸管出血性大腸菌(12)〔西部東保健所(1),広島市保健所(7),呉市保健所(1),福山市保健所(3)]
四類	20	A型肝炎(1)〔西部東保健所(1)] レジオネラ症(7)〔西部保健所(2),西部東保健所(1),広島市保健所(3),福山市保健所(1)] 重症熱性血小板減少症候群(4)〔北部保健所(2),広島市保健所(1),呉市保健所(1)] 日本紅斑熱(8)〔東部保健所(4),呉市保健所(1),福山市保健所(3)]
五類	25	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所(1)] カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔西部保健所(2),呉市保健所(2)] クワイツフェルト・ヤコブ病(2)〔広島市保健所(1),福山市保健所(1)] 急性脳炎(1)〔福山市保健所(1)] 侵襲性肺炎球菌感染症(4)〔東部保健所(1),広島市保健所(1),福山市保健所(2)] 水痘(入院例に限る)(2)〔北部保健所(1),呉市保健所(1)] 梅毒(8)〔西部保健所(1),西部東保健所(1),広島市保健所(3),福山市保健所(3)] 百日咳(3)〔広島市保健所(2),福山市保健所(1)]
指定	2	新型コロナウイルス感染症(2)〔広島市保健所(1),福山市保健所(1)]